

**私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。**

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名		八王子美山学園		施設番号	41-0015
項目	評価結果に基づく現状分析 (平成21年度)	改善計画 (平成21年度末時点)	実施状況 (平成22年10月1日時点)		
理念・ビジョンの成文化と関係者への発信	評価結果で「暮らしの支援にとどまらず、働くことに力を入れた日中支援の充実を明確に打ち出し、リサイクル事業など生産活動を積極的に行っている。これらの取組みを見ても、事業所の目指す方向性は明らかであるが、一方で支援のより処としているのは、法人の定款とのことである。事業所として大切にしたい基本的な考え方、目指す支援のあり方、方向性等を「理念」として文章表現し、経営層から改めて発信、説明することが求められる。利用者、家族、職員等に理念、ビジョンを明らかにすることで、関係者のより一層の理解、満足を得られるものと思われる。」と講評されているとおりである。	八王子美山学園として大切にしたい基本的な考え方・目指す支援のあり方・方向性等について、早急に「理念」として文章作成し、統括管理者から利用者・家族・職員等改めて説明する。			
事業所として大事にする考え方を組織的に浸透させる仕組みをつくりたい	評価結果で「研修制度については人材育成の観点から特に力を入れる姿勢としているものの、現時点では職能等級に合わせた層別の研修履行に留まり、職員個々の要望を踏まえた個別プログラムは策定されていない。また、当事業所では働くことを重視し、重い障害を持つ人でも地域に移行していくことを尊重している。こうした考え方を職員に浸透させる機会には、個人面談など個別指導的なアプローチに留まっている面が見られる。今後は事業所として大事にしている考え方を職員に対してより一層浸透させるための理念研修など、組織的な仕組みを取り入れることが望まれる。」と講評されているとおりである。	八王子美山学園として大切にしたい基本的な考え方・目指す支援のあり方・方向性等を職員に対してより一層浸透させるため、福祉職場における理念研修を22年3月から、毎週1回実施。22年度も継続実施予定。なお、職員の個別研修プログラムを22年度中に作成予定。			
生活をより豊かにする文化的・社会的資源の活用	評価結果で「当事業所は、働くことを大事にし、利用者の多くが生産活動に従事して、働く喜びと生きがいを得ている。一方、休日には街へ買い物や食事に出かけたり、日帰り旅行や一泊旅行、クラブ活動等も提供されている。今後は、さらに利用者が地域に出て、文化的・社会的資源を利用しながら生活をより豊かにしていける機会の提供も必要と思われる。外出支援に関わるボランティアの育成を図りながら、職員だけではできない個別支援の一層の充実を期待したい。」と講評されているが、当事業所としては、ボランティアの職員補完的な活用について疑問視しており、こうしたボランティアの活用なしで、今以上に利用者が地域に出て、生活をより豊かにしていける機会を増やすことができるよう模索中である。	八王子美山学園では、利用者が地域に出て、生活をより豊かにしていける機会の創出は、職員によることを原則とし、職員補完的なボランティアの活用はしない。なお、今年度から、当事業所の一大イベントである納涼祭を、地域と連携した方式に変更し、利用者の社会参加をより促進する予定。			

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価（又は利用者に対する調査）の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。